

環境影響評価準備書について述べられた意見の概要と当社の見解

No.	意見の概要	当社の見解
1	<p>ガン、カモ、ハクチョウ類の行動と風車設置位置の再検討が必要。</p> <p>風車建設予定地内のガン、カモ、ハクチョウ類の飛行軌跡が東西方向に多い。風車が南北に通る道路沿いに並ぶとすれば直角に交差し、バードストライクの危険が大である。</p> <p>カモ類の多くは半夜行性で夜間の飛行移動も多い。ハクチョウ類も夜間飛行がある。</p> <p>ガン、カモ、ハクチョウ類の行動を夜も含めて詳しく行うこと。</p> <p>夜間行動はレーダー等を駆使し、飛跡、高度を明らかにすること。</p> <p>バードストライクの試算にはカモ類の幅広い移動期を通じた、昼夜の実態を明らかにしてから評価すること。</p>	<p>方法書に対するご意見を踏まえ、夜行性鳥類（ヒクイナ、ヨシゴイ、オオヨシゴイ、フクロウ、ヨタカなど）を対象にした夜間の任意調査は実施しましたが、ご指摘のガン・カモ・ハクチョウ類を対象とした夜間の調査は実施しておりません。</p> <p>しかしながら、二カ年に亘る現地調査の結果、ガン・カモ・ハクチョウ類が、対象事業実施区域の近傍の冷水沼を主な埒としては利用していること及び、これらの種が冷水沼から採餌場として利用されている東部の水田地帯等へ飛翔する状況が確認されています。</p> <p>本事業で予定している風力発電機は、ガン・カモ・ハクチョウ類の主な埒である冷水沼からの移動の主方向である東方向には建設いたしません。また、可能な限り北東方向に、かつ、風力発電機の間隔を極力離すことでバードストライクの危険性を実行可能な範囲で低減する計画としています。</p> <p>ただし、ガン・カモ・ハクチョウ類を含む鳥類については、バードストライクに関する事後調査を実施し、万が一衝突事故が発生した場合には、専門家と協議し、適切な対策を講じる考えです。</p>

No.	意見の概要	当社の見解
2	<p>観光路としての性格が強い道路沿いの風車設置は不適である。</p> <p>竜飛崎、十三湖、七里長浜、ベンセ湿原と湖沼群、亀ヶ丘遺跡、高山稻荷神社と魅力ある観光地が屏風山地区広域農道メロンロード周辺に点在する。</p> <p>屏風山の湖沼・湿原の原風景と動植物等の保護・保全で評価される当地の景観としてふさわしいかを評価すべきである。</p> <p>また、平成25年5月28日には、津軽半島環境研究センターが開所され（青森県地方紙、東奥日報5月29日）、津軽半島の自然環境、人口減少、産業低迷など調査研究、県内外の専門家、実務者が加わり、今後、屏風山を含む津軽半島に目が向けられる。</p> <p>自然研究者、自然を楽しむ観光客など自然環境保全の目が肥えた来訪者が増加することを意識した景観の評価を期待したい。</p>	<p>対象事業実施区域は、ご指摘の屏風山地区広域農道メロンロード沿いに位置しておりますが、竜飛崎、十三湖、七里長浜、ベンセ湿原と湖沼群、亀ヶ丘遺跡、高山稻荷神社などの観光地が存在するエリアの南側のはずれに位置しております。</p> <p>準備書の中では、津軽国定公園の第1種特別区域に位置するベンセ湿原からの眺望の変化について予測評価を行い、違和感はないものと予測しましたが、地元住民への説明会では、景観に対する環境保全上のご意見はありませんでした。</p> <p>また、つがる市で策定した「つがる市都市計画マスタープラン」（平成22年3月）の【景観形成の方針】に記載されている自然景観の形成に関する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東側の田園地帯に広がる水田及び農村集落は、本市を象徴する広大でゆとりのある田園風景として、景観眺望の保全を図る ・地域の特性を踏まえ、農村景観の保全を図る ・畑地・果樹園の景観（りんご、メロン等）を活用し、新たな景観の創造を検討する等の方針と齟齬のない事業計画になるよう努めています。 <p>なお、本事業については、地元自治体と調整を図りながら、事業を進めていく方針です。</p>